

1. 奥会津の地域課題を見据えたビジョン（20 年後の将来の姿を表現する）

Vision.1 顔を見知った医療

もしもの時を心配せずに安心して生活していくことができる地域です。

解説：それは、医療機関との距離にとらわれず、誰もが必要な時に必要な診察・治療を受けることができます。村人全員がどの医療人とも顔見知りで立場を超えて情報交換ができる関係にあります。（＝自分のことを知っていて、自分の症状などのことを知っていることが安心して診察を受けられることにつながるためです。）また、村人の健康状態は医療機関のみならず行政機関に共有されており、風通しの良い情報網が確立しています。

Vision.2 得する保健・健康増進

雪深くても、健康で生き生きと生活することができる地域です。

解説：8020 運動ならぬ 8025 運動を実施し、80 歳でも 25 本の歯がありお肉をばくばく食べることができています。お肉や好きなものを食べることが健康寿命を伸ばし、生き生きと生活することに不可欠です。また、運動して得たポイントを商品券に変えられます。住民の運動意欲を高め、冬の間の運動不足も解消できます。以上の取り組みで、雪深い地域でも楽しく健康的な生活を送れる仕組みがあります。

Vision.3 つながりのある福祉

さまざまな年代、地域の人との関わりがあり、お互いに見守り合う地域です。

解説：どの住民も一週間で家族以外の 30 人と会話をしています。4 町村内はもちろん、それだけではなく、福島県内の大学生や自治体・社協等と協力し、若者から高齢者まで広く繋がり、関わり合える仕組みがあります。子ども達は地域全体に包まれながら、安心してすくすく成長していきます。

Vision.4 前向きに暮らせる環境がある生活

移動手段の有無に関わらず、必要なものが手に入り、行きたい場所へ行ける地域です。

解説：VR 技術を用いた仮想スーパーがあり、冬の間外出できない地域の人にとって、大助かりなシステムとなっています。また、雪などに干渉されない移動手段である、（突飛ですが）モグラロードは地下通路で色々な場所と繋がっています。エス

カレーターやエレベーターなどを応用した通路となっており、遠く離れた場所でも気軽にいくことができます。

2. 調査・ヒアリングの概説

①訪問診療の同行訪問

- ・医師・看護師への信頼が厚い。来てもらうだけで、心の薬。近隣からの声かけも、心の薬
- ・遠方の家族も心の便り
- ・もしもの「怖さ」はかかえている
- ・家族・親族は何らかの「心配」はしている
- ・本人の楽しみは持っている
- ・外出は疎遠

☑課題

- ・訪問診療の移動の効率化は課題
- ・県立宮下病院との診療機関との情報共有効率化は課題

②サロン・健康教室での参与観察・住民調査（抜粋）

- ・一人暮らしの割合が思いの外高い。
- ・移動手段が半分以上自家用車
- ・楽しみは外出、買い物、ゲートボールなど。多くの時間をテレビを見て過ごす。やってみたいことは考えつかない人が多い。
- ・現時点で不便さはあまり感じていない人が多い（住民感情）。

☑課題

- ・交通事情・生活事情を考えると高齢ドライバーが日常
- ・歯に問題を抱えている人の割合高い、定期的な歯科医受診率は低い
- ・野菜不足（特に冬）

※住民調査は引き続き継続する意向のため、統計的集計は今後集積する。

③昭和村保健福祉課ヒアリング調査（抜粋）

博士トンネル開通で劇的変化の可能性が！

- ・会津若松市まで1時間程度に
→医療圏域の変化
生活圏域も会津若松方面に関心（買い物も）
交流人口・観光客増加の可能性
- ・村内のインターネット環境整備

→オンライン相談

村内全域に無料 Wi-Fi （予定）

マイナンバー制度を利用した電子図書館

・農業による規則正しい生活が健康の秘訣

→運動、健康的な食事につながっている

生きがいにつながっている

近所付き合い、見守りにつながっている

☑課題

・コロナ以降の検診率低下

・Wi-Fi 環境の活用

3. 導き出した仮コンセプト（一部解説）

その1 安全な自家用車運用による移動や外出の多様化

高齢者ドライバーの安全を確保→買い物、医療施設への移動が安全に。

新たな場所への外出を増やす。乗り合いを促進して交流を促す。

その2 8020≦8025 で、野菜もお肉も好きなものを食べて健康

身体に悪いものを取らないようにするだけではなく、好きなものを食べて健康になる。

その3 疾病予測から早期発見へ見える化

チェック（早期発見）→プログラム（行動変容）→見える化（Dの技術）

その4 温かみを失わないモバイルクリニック

医師・看護師への信頼は失われないような遠隔医療技術。電子カルテ必須。
電子聴診器の導入。

その5 健康増進。家でできることをさがそう

冬場の健康づくりが課題。サロンに行く人行かない人それぞれの暮らしはあるのであれば、いっそ家の中でできることを。寒冷地のヒートショック予防。
暮らしの中での運動。引きこもりは気をつけて。

（他）

その6 健康づくりと地域経済の融合

その7 仮想システムを使ったリアリティ交流

その8 アプリ使って選択できる生活に



2月 奥会津在宅医療センター前にて



3 月 成果報告会

「福島県東津地方振興局 令和5年度企画DX日新館事業」 福島大学行政政策学類 地域福祉研究室

テーマ名：奥会津地域における地域福祉・保健・医療のDX

参加員名簿：郡山町保健福祉課DX推進員
三島町地域保健福祉係
会津町保健福祉係
昭和村保健福祉係保健係

課題意識

国内で上位の高齢者人口率を誇る郡山町・会津町・三島町・昭和村は、人口減少・少子化も相まって過疎地域での福祉・医療に課題を抱えています。その足もとでは健康増進という保健の側面も重要。福祉と一体化して取り組みを進めなければなりません。そして、幸福度の得られる生活の質も関係するものと考えます。行政・保健医療機関・地域住民・大学（学生）を交流、東部会津性を追求した活動や政策の検討をします。その際DX（デジタル改革）を発想に加えますが、それは技術による効率的な検討ではなく、地域住民のwell-beingを目指すためのものと考えます。

20年後の姿（ビジョン）

Vision1 **暮らしを完結した医療**
ものものしく心豊かに安心して生活していくことができる地域です。

Vision2 **暮らしを完結した福祉・健康増進**
豊かで、健康で生き生きと生活することができる地域です。

Vision3 **つながりのある福祉**
様々な年代、地域のひととの関わりがあり、お互いに見守り合う地域です。

Vision4 **暮らしに寄り添った環境がある生活**
移動手段の有無に関わらず、必要なものが手に入り、いざいざ場所へ行ける地域です。

●訪問診療の同行訪問（抜粋）

- 医師・看護師からの依頼が厚い。来てもらうだけで、心の豊。近所からの自費でも、心の豊
- 遠方の家族も心の便り
- ものものしく「怪さ」はかえていく
- 家族の「心配」
- 本人の楽しみは持っている
- 外出は遠慮
- 移動手段の移動の効率化は課題
- 県立富下病院との連携共有効率化は課題

●昭和村とヒアリング（抜粋）

トータル課題で創発変化の可能性！

- 医療面の変化
- 生活面では会津若松方面に偏心（買物も）
- 交通人口増加の可能性
- オンライン相談、Wi-Fi環境の整備

●健康教室・サロン参加と観察。住民調査①

- お一人暮らしが早いのは多い
- 自家用車は半台、高齢ドライバーは続く
- 地域交流は両極端
- 楽しみは、外出・買い物・雑仕事。多くの時間はテレビの時間。具体的にやりたいことは出てこない人が多い。
- 規則正しい食事は多く保っている。
- 野菜不足（とりわけ冬場）が課題として
- コーヒー嗜好が2/3
- 半信半疑はほとんどが1時間未満（冬は10分）
- 8割は、夜間に目が覚める（そのほとんどはトイレ）
- 半分は歯に懸念を感じている。一方歯科診療は半分
- 健康は良好。100%かかりつけ医あり。
- 体調不良時でも薬を飲む以外なし。
- サロン・健康教室は楽しいものを楽しみに。その心情的影響も良好。
- 普段の生活に不便さは感じていない。でも買物の不安はある。